

(様式 1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（2年次）

## 1 学校名等

学 校 名	福知山市立夜久野小学校							校長名	山添 麻矢	
所 在 地	〒629-1313 京都府福知山市夜久野町高内26番地 電話 0773-37-0047 FAX 0773-37-1478									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	1	7	11 ※校長・教頭を含む	
児 童 数	18	13	15	13	13	15	2	89		
連 携 先 (文化財所有者等)	夜久野地域公民館 (0773-37-1188) やくの木と漆の館 (0773-38-9226)									

## 2 研究校の概要（児童の実態、学力状況(分析)、研究体制等）

本校は、福知山市の北西部に位置し、平成 25 年 4 月に、施設一体型の小中一貫教育校としてスタートし、本年度で開校 10 年目を迎えた。現在全校児童生徒数 131 名（児童数 89 名、生徒数 43 名）、学級数は、1 から 9 年生まで単学級で、特別支援学級を合わせると 10 学級である。

児童の実態としては、全体的に落ち着いていて、学習や活動など、真面目に取り組める児童が多い。また、以前から I C T 機器を活用した授業に取り組み、児童は I C T 機器を使って学習に取り組むことができる。反面、少人数のため、多様な考えを交流する機会が少なく、自信をもって自分の考えを发表或し、身の回りの課題に気付いたりする力に弱さが見られる。

全国学力・学習状況調査（6年）、京都府学力診断テスト（4年）、学力テスト（全学年）の結果等を見ていくと、府平均を若干下回る教科もあるが、おおむね府平均もしくは府平均以上の数値を示し、基礎基本の力はほぼ身に付いていることがうかがえる。しかし、児童一人一人を見ていくと、課題も多く、個別指導を要する児童も少なくない。

## 3 主な研究活動（時期や内容等）

### (1) 総合的な学習の時間に関わる取組

本年度は、昨年度の実践を基に総合的な学習の時間(低学年は生活科)の年間計画の見直しを進め、P B Lを学習過程にどのように落とし込んでいくかについて研究を進めた。特に、課題設定については慎重に検討し、課題設定が学習の流れにとってどうであったか検証することを重点に置き取り組んだ。

#### ア P B Lについての理論研修 (5/25)

京都府教育庁指導部学校教育課指導主事 藤井達也様、キャリア教育コーディネーター 矢野昌則様から、課題解決型の学習 (P B L) についての研修をしていただき、講義・演習を通して理解を深めた。P B Lでは、付けた力を明確にすること、情報収集、課題分析、仮説構築、検証、アウトプットの5つの過程を他教科とも関連付けながら学習を進めること、の2点に留意して実践していくことを学んだ。そのなか



ら、今後の授業研究を進める3つの視点を決め、取り組んでいくことを確認した。

#### イ 9年(中学3年)研究授業 (6/15)

「平和の実現」を課題としたPBLについての授業研究を行った。学習の中でPBLをどのように具現化し、何に留意する必要があるのか具体的にイメージすることができた。また、課題設定の難しさや課題設定に至る問いをどうすればよいかなど、学習の入り口の設定には児童生徒の実態を踏まえて慎重に考えることが重要であるとの気付きも得た。



#### ウ 3年研究授業 (10/19)

夜久野町の農業、特産物である漆や葡萄、蕎麦について学んできた中から、「夜久野の漆を多くの人に伝える方法について考えよう」を課題としてICTを活用して解決策を考えました。PBLでは、児童の意見から問題を提起することの重要性や児童の解決方法に対する個別の支援の必要性を実感するとともに、発達段階に応じた課題設定の難しさにも気付くことができ、今後の研究の見通しを持つことができた。



#### エ 6年研究授業 (1/18)

夜久野町の無形文化財「額田のダシ行事」を「20年後も受け継ぐにはどうしたらよいか」という課題を、振興会の方の願い(問い)から設定し、その課題の解決策の再提案の内容を検討する学習を進めた。考えを出し合っては何度も組み立て直し、なんとか最適解を出そうとする児童への支援について、深めることができた。しかし、生み出した解決策を実社会でどのように生かしていけるのかについて、地域との関わりの中で今後、共通の見通しをもちながら、検証していくことの重要性和困難さに直面した。



#### オ 4年取組



4年生では各地域のお祭について調べる中から、課題を設定し、校内でできる祭を自分たちで計画した。どうすればみんなが楽しんで参加できる祭になるのか話し合いを重ね、実施した。お祭当日は、お話を聞いた祭の関係者の方にもお越しいただき、感想をいただいた。

#### カ 5年取組

5年生では夜久野町内の有形・無形文化財について現地に行って調査する中から、それらの文化財の認知度を上げていくことが守っていくことの一步につながると考えた。そのために、文化財を巡るウォークラリーを企画しようと、校内でのミニウォークラリーを試しに実施し、課題の整理をした。そして、実現に向けての方策を練り上げた。



#### (2) 各教科でのPBLを取り入れた授業研究

主体的・対話的で深い学びを実現するために、各教科でのPBLを取り入れた授業研究も同時に進めた。これによって、小中一体となってPBLについて議論することができ、研究協議

を進めることもできた。

#### ア 「PBLを実現する授業づくり」についての研修（8/29）

京都府中丹教育局学校教育担当指導主事 西村華織様による主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについての研修を行った。実現に向けたポイントとして、見通しをもった展開、学習の振り返りが重要であることを理解することができた。各教科でのPBLの実現に向けて2学期の授業づくりに生かしていくための見通しが持てた。

#### イ 各教科でのPBLの手法を生かした授業の研究（ちょこっと研修）

教員一人一回ずつ、PBLの手法を生かした授業を公開し、みんなで少しの時間でも見合う、「ちょこっと研修」を2学期から開始した。教科によって実現方法には大きな違いがあり、PBLの過程について学校として統一したものを明示し、各教科の中でどのように具体化したのか分かるようにすることが、今後の研究の視点になるとのまとめができた。

### 4 今年度の研究の成果と検証（児童、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等）

- (1) 児童生徒も教師もPBLの流れに沿って学習を進めることを理解し、見通しを持って課題解決できるようになった。そのため、粘り強く取り組んだり話し合ったりよりよくしようとしたりする意欲も向上した。
- (2) 農業や農作物、有形・無形文化財などに関わりのある方々との学習によって、夜久野町に対する愛着が向上した。また、地域の方とのふれあいにより、学びや交流をより深めることができた。
- (3) 本校では、非認知能力を含む学園基礎力をすべての活動に位置付けている。その学園基礎力に関するアンケートの結果で、「問題を解決するために方法や手順を考えている」や「新しい考えを生み出したり、いろんな情報や考えを創り出したりしている」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」では、年度初めに比べて年度末の方が下がっていた。これについては、コロナ禍の状況を見ながらさまざまな活動を再開したため、いろんな活動を通して正しく自分の力を判断することができたのではないかと考えている。教員を対象とした児童生徒と同じ項目のアンケート結果を見ると、児童生徒と教員とがほぼ同じ結果になっていることから、自分自身の力を正確に認知できるようになったと分析している。

### 5 今年度の課題

- (1) 地域等の方々からの問いや課題の内容など、各学年の児童に合ったものを設定することの難しさを実感した。今後は学習計画の立案の段階で地域等の方々との打合せを丁寧にする必要がある。
- (2) 新型コロナウイルスの感染症の影響で十分に現地に行けなかったり関係の方々と会えなかったり、情報収集や検証の場面で不十分になってしまったりしたので、計画を今一度練り直す必要がある。
- (3) PBLの本校ならではの学習過程を明確にし、総合的な学習の時間であっても各教科の学習であっても学習の流れをはっきりさせ、児童生徒も教員も共有しながら見通しを持って学びを進められるようにすることで、粘り強く学習に向き合ったり新たな考えを構築したりできる児童生徒の育成につなげていきたい。

## 6 事業終了後の研究構想

夜久野学園は、開校以来「ふるさと未来学」と題して、地域の自然や歴史、文化や人等から学び、非認知能力を含めた学園基礎力の育成に取り組んできている。今回の研究を通じて、学習計画を見直し、より主体的・対話的で深い学びが展開できるものになり、より学習効果が高められ、ふるさと夜久野への思いや願いも深まり、強いては地域への貢献度も高まると考えられる。

さらには、各教科でのPBLの手法を使った学習展開を実践してきており、今後も実践していくことで学園全体で統一した指導を通して児童生徒を育てることができ、学力の向上につながれると考えている。持続可能な取組にするために年間計画に組み込み、学期の節目で確認することで、PBLが息づく教育活動につながるよう、次年度の研究を進めていきたいと考えている。

# 単元名 夜久野 深め隊！

《単元目標》

・夜久野の特産物・伝統文化・文化財について学んできたことをふり返し、夜久野のよさについて学びを深めていく活動を通して、無形文化財「額田のダシ行事」を大切に思い活動する人たちやその活動内容について知り、自分たちにできる具体的な取組を考え、地域との関わりの中で自分にできることを見つけることができるようにする。

《単元の展開》

学習過程・小単元（時数）	学習活動	外部人材・見学等
1.「額田のダシ行事」について詳しく知ろう。（5）  <div style="text-align: right;">情報収集</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の取組をふり返し、無形文化財に登録されている「額田のダシ行事」について学習していくことを知る。</li> <li>・額田のダシ行事について、額田のダシ振興会の方から話を聞く。（歴史・内容・願い）</li> </ul>	額田のダシ振興会
額田のダシ行事を20年後の君たち世代にしっかり受け継ぐためにどうすればいいだろうか？		
2.「額田のダシ行事」のために自分たちにできることを考えよう。（18）  <div style="text-align: right;">仮説構築</div>  <div style="text-align: right;">アウトプット</div> <div style="text-align: right;">検証</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞かせていただいた話を整理し、疑問点や気になったことなどを調べる。</li> <li>・何が課題かを明らかにする。</li> <li>・課題解決に向けて自分たちにできる方策を考える。（めざす状態の設定）</li> <li>・考えたことが実現できそうか検証し、解決策を練り上げる。</li> <li>・文化祭で解決策を発表する。</li> <li>・額田のダシ振興会の方に解決策を見てもらい、意見をいただく。</li> </ul>	
3.よりよい解決策を見付けよう！（27）  <div style="text-align: right;">情報収集</div> <div style="text-align: right;">仮説構築</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・額田のダシ振興会の方の意見をもとに、解決策を見直す。（祭に参加・参加者にインタビュー）</li> </ul>	

<p style="text-align: center;"> <span style="background-color: #4F81BD; color: white; padding: 2px 5px;">検証</span>  <span style="background-color: #4F81BD; color: white; padding: 2px 5px;">アウトプット</span> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え直したことが実現できそうか検証し、解決策を練り上げる。</li> <li>・新たな解決策を額田のダシ振興会の方に提案する。</li> <li>・学習のまとめをする。</li> </ul>	
---	---	--

《評価規準》

【知識・技能】

- ・額田のダシ行事と自分たちの生活との関わりを理解している。
- ・額田のダシ行事の情報について多様な方法で調べ、比較・分類することができる。

【思考・判断・表現】

- ・額田のダシ行事に対する地域の方の思いを聞く活動を通して、問題を見付け出し、課題を明らかにしている。
- ・額田のダシ行事の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・課題解決に向けた自己の取組をふり返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。
- ・額田のダシ行事のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と地域との関わりを見直そうとしている。